

別紙様式1 (第20条 第2項関係)

動物実験等の実施状況  
(令和6年度)

千葉県畜産総合研究センター

1. 動物実験等の実施件数等						実施件数合計 10件		
小哺乳類			大哺乳類			鳥類		
動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数
マウス			ウシ	8	108	ニワトリ	1	40
ラット			ブタ	1	73	ウズラ		
ハムスター			ヤギ			アヒル		
モルモット			ヒツジ			カラス		
ウサギ			イヌ			爬虫類		
			ネコ			動物種	件数	飼養数
			サル					
			イノシシ					
			タヌキ					

2. 動物実験の主な内容

令和6年度に実施した動物実験の主要な目的および実験方法は次のとおり。

(1) 乳用牛の飼養試験 (2件)

低品質粗飼料の給与割合の違いや、添加物有無の違いなど、給与する飼料の違いが乳用牛の飼料摂取量や乳量、第一胃内容液性状、血液成分、乳房炎の発症等へ及ぼす影響を調べるため、第一胃内容液および血液を採取した。

なお、胃液および血液の採取は、熟練した技術者、あるいは熟練した技術者の指導の下、短時間で行った。

(2) 肉用牛の飼養試験 (3件)

自給飼料の給与割合の違いや、粗飼料と濃厚飼料の給与割合の違い、添加物有無の違いなど、給与する飼料の違いが肉用牛の発育、肉質、第一胃内容液性状、血液成分等へ及ぼす影響を調べるため、第一胃内容液および血液を採取した。

なお、胃液および血液の採取は、熟練した技術者、あるいは熟練した技術者の指導の下、短時間で行った。

(3) 乳用牛の繁殖に関する試験 (3件)

乳用牛の繁殖成績や受精卵の生産成績を改善するため、ホルモン製剤や添加物の投与試験を行い、受胎成績や採卵成績と併せて、血液成分への影響を調査した。

なお、ホルモン製剤の投与、採卵および血液の採取は、熟練した技術者、あるいは熟練した技術者の指導の下、短時間で行った。

#### (4) 豚の飼養試験 (1件)

母豚の飼養方法の違いや、子豚の去勢時の麻酔の有無の違いによって、ストレスの指標とされる血液及び唾液中のコルチゾール濃度の違いを調べるため、血液採取、去勢、麻酔を実施した。

なお、血液採取および去勢並びに麻酔は、熟練した技術者、あるいは熟練した技術者の指導の下、短時間で行った。

#### (5) 採卵鶏の飼養試験 (1件)

採卵鶏をアニマルウェルフェアに対応したケージで飼養し、ストレスの指標とされる血中コルチゾール濃度を調べるため、血液を採取した。

なお、血液採取は、熟練した技術者、あるいは熟練した技術者の指導の下、短時間で行った。

備考1 ○○の箇所には和暦を記載すること。

- 2 「1. 動物実験等の実施件数等」の欄は、報告する年度における動物実験等の実施件数の総数、動物種（上記に表示のない動物種による動物実験等を実施している場合は、当該動物種名を新たに記載すること。）ごとの件数及び飼養数について記載すること。
- 3 「2. 動物実験の主な内容」の欄は、報告する年度において実施した主要な動物実験の目的や実験方法等の内容について簡潔に記載すること。

別紙様式 1 (第 20 条 第 2 項関係)

動物実験等の実施状況  
(令和 6 年度)

千葉県畜産総合研究センター

1. 動物実験等の実施件数等						実施件数合計 1 件		
小哺乳類			大哺乳類			鳥類		
動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数
			ウシ	1	6			
						爬虫類		
						動物種	件数	飼養数
<p>【課題名：低品質粗飼料の効率利用に向けた粗飼料混合給与が消化性、ルーメン内発酵、窒素代謝に及ぼす影響】</p> <p>2. 動物実験の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採血は、全供試頭数 6 頭中 6 頭実施し、各 3 回延べ 18 回実施した。</li> <li>第一胃液の採取は、全供試頭数 6 頭中 6 頭実施し、各 3 回延べ 18 回実施した。</li> </ul> <p>採血および胃液の採取は、熟練した技術者、あるいは熟練した技術者の指導の下、短時間で実施した。</p>								

備考 1 ○○の箇所には和暦を記載すること。

2 「1. 動物実験等の実施件数等」の欄は、報告する年度における動物実験等の実施件数の総数、動物種（上記に表示のない動物種による動物実験等を実施している場合は、当該動物種名を新たに記載すること。）ごとの件数及び飼養数について記載すること。

3 「2. 動物実験の主な内容」の欄は、報告する年度において実施した主要な動物実験の目的や実験方法等の内容について簡潔に記載すること。

別紙様式1（第20条 第2項関係）

動物実験等の実施状況  
(令和6年度)

千葉県畜産総合研究センター

1. 動物実験等の実施件数等						実施件数合計 1件		
小哺乳類			大哺乳類			鳥類		
動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数
			ウシ	1	24			
						爬虫類		
						動物種	件数	飼養数
<p>【課題名：牛乳房炎発症予防法開発とその実証試験】</p> <p>2. 動物実験の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・採血は、供試牛 24頭で延べ 116回実施した。</li> <li>・第一胃液の採取は、供試牛 24頭で延べ 87回実施した。</li> <li>・糞便の採取は、供試牛 24頭で延べ 58回実施した。</li> <li>・血液、第一胃液および糞便の採取は、延べ 261回実施した。</li> <li>・採血および胃液の採取は、熟練した技術者、あるいは熟練した技術者の指導の下、短時間で実施した。</li> <li>・肝臓組織の採取は実施しなかった。</li> <li>・子宮内膜細胞の採取は実施しなかった。</li> </ul> <p>※延べ回数は 2024/4/1～2025/3/31 までの回数</p>								

備考1 ○○の箇所には和暦を記載すること。

2 「1. 動物実験等の実施件数等」の欄は、報告する年度における動物実験等の実施件数の総数、動物種（上記に表示のない動物種による動物実験等を実施している場合は、当該動物種名を新たに記載すること。）ごとの件数及び飼養数について記載すること。

3 「2. 動物実験の主な内容」の欄は、報告する年度において実施した主要な動物実験の目的や実験方法等の内容について簡潔に記載すること。

別紙様式 1 (第 20 条 第 2 項関係)

動物実験等の実施状況  
(令和 6 年度)

千葉県畜産総合研究センター

1. 動物実験等の実施件数等						実施件数合計 1 件		
			大哺乳類					
動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数
			ウシ	1	17			
						爬虫類		
						動物種	件数	飼養数
<p>【課題名：交雑種去勢肥育牛における早期出荷のための肥育前期粗飼料割合の検討】</p> <p>2. 動物実験の主な内容</p> <p>(1) 黒毛和種 5 頭 (去勢雄 2 頭、雌 3 頭)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採血 1~2 回 (4 月~5 月 8 週おき)</li> <li>第一胃内容液採取 1~2 回 (4 月~5 月 肥育後期開始 3 ヶ月・終了時)</li> </ul> <p>(2) 交雑種去勢牛 12 頭</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採血 4 回 (4 月~9 月 8 週おき)</li> <li>第一胃内容液採取 2 回 (4 月~9 月 各肥育期終了時)</li> </ul> <p>採血および胃液の採取は、熟練した技術者、あるいは熟練した技術者の指導の下、短時間で実施した。</p>								

備考 1 ○○の箇所には和暦を記載すること。

2 「1. 動物実験等の実施件数等」の欄は、報告する年度における動物実験等の実施件数の総数、動物種 (上記に表示のない動物種による動物実験等を実施している場合は、当該動物種名を新たに記載すること。) ごとの件数及び飼養数について記載すること。

3 「2. 動物実験の主な内容」の欄は、報告する年度において実施した主要な動物実験の目的や実験方法等の内容について簡潔に記載すること。

別紙様式 1 (第 20 条 第 2 項関係)

動物実験等の実施状況  
(令和 6 年度)

千葉県畜産総合研究センター

1. 動物実験等の実施件数等						実施件数合計 1 件		
			大哺乳類					
動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数
			ウシ	1	1 2			
						爬虫類		
			動物種	件数	飼養数			
<p><b>【課題名：交雑種去勢牛における自給飼料を活用した肥育期間短縮技術の検討】</b></p> <p>2. 動物実験の主な内容          試動物：交雑種去勢牛 1 2 頭          ・採血 10 回 (R6 年 5～3 月 12 頭 1 か月おき)          ・第一胃内容液採取 4 回 (11～2 月 12 頭 各肥育期中盤・終了時)</p> <p>採血および胃液の採取は、熟練した技術者、あるいは熟練した技術者の指導の下、短時間で実施した。</p>								

備考 1 ○○の箇所には和暦を記載すること。

2 「1. 動物実験等の実施件数等」の欄は、報告する年度における動物実験等の実施件数の総数、動物種（上記に表示のない動物種による動物実験等を実施している場合は、当該動物種名を新たに記載すること。）ごとの件数及び飼養数について記載すること。

3 「2. 動物実験の主な内容」の欄は、報告する年度において実施した主要な動物実験の目的や実験方法等の内容について簡潔に記載すること。

別紙様式 1 (第 20 条 第 2 項関係)

動物実験等の実施状況  
(令和 6 年度)

千葉県畜産総合研究センター

1. 動物実験等の実施件数等						実施件数合計 1 件		
小哺乳類			大哺乳類			鳥類		
動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数
			ブタ					
			母豚	1	13			
			子豚	1	60			
						爬虫類		
						動物種	件数	飼養数
<p>【課題名：日本版アニマルウェルフェアに配慮した豚のストレス緩和法の検討】</p> <p>2. 動物実験の主な内容</p> <p>試験 2：分娩前巣作り行動調査          供試動物：L 母豚 13 頭          母豚の尾静脈からの採血 13 頭×2 回 (分娩 1 週間前、離乳時)          採血は熟練した技術者、あるいは熟練した技術者の指導の下、短時間で実施した。</p> <p>試験 3：鎮静下での去勢の調査          供試動物：LWD 子豚 60 頭 (うち鎮静剤投与後の去勢頭数 30 頭)          子豚の去勢と去勢時の鎮静剤投与は熟練した技術者、あるいは熟練した技術者の指導の下、短時間で実施した。</p>								

備考 1 ○○の箇所には和暦を記載すること。

2 「1. 動物実験等の実施件数等」の欄は、報告する年度における動物実験等の実施件数の総数、動物種 (上記に表示のない動物種による動物実験等を実施している場合は、当該動物種名を新たに記載すること。) ごとの件数及び飼養数について記載すること。

3 「2. 動物実験の主な内容」の欄は、報告する年度において実施した主要な動物実験の目的や実験方法等の内容について簡潔に記載すること。

別紙様式1（第20条 第2項関係）

動物実験等の実施状況  
(令和6年度)

千葉県畜産総合研究センター

1. 動物実験等の実施件数等						実施件数合計 1件		
小哺乳類			大哺乳類			鳥類		
動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数
マウス ラット ハムスター モルモット ウサギ			ウシ ブタ ヤギ ヒツジ イヌ ネコ サル イノシシ タヌキ			ニワトリ ウズラ アヒル カラス	1	40
						爬虫類		
						動物種	件数	飼養数
<p>【課題名：採卵鶏におけるアニマルウェルフェアケージシステム利用の検証】</p> <p>2. 動物実験の主な内容            (1) デカルブホワイト 試験4区×38羽×2反復の計304羽            採血1回(4月～5月 試験終了時)            ※採血数は、試験1区あたり10羽×1回の計40羽を実施した。            ※ストレス指標としてコルチコステロンを測定した。            ※採血は熟練した技術者、あるいは熟練した技術者の指導の下、短時間で実施した。</p>								

備考1 ○○の箇所には和暦を記載すること。

2 「1. 動物実験等の実施件数等」の欄は、報告する年度における動物実験等の実施件数の総数、動物種（上記に表示のない動物種による動物実験等を実施している場合は、当該動物種名を新たに記載すること。）ごとの件数及び飼養数について記載すること。

3 「2. 動物実験の主な内容」の欄は、報告する年度において実施した主要な動物実験の目的や実験方法等の内容について簡潔に記載すること。

別紙様式 1 (第 20 条 第 2 項関係)

動物実験等の実施状況  
(令和 6 年度)

千葉県畜産総合研究センター

1. 動物実験等の実施件数等						実施件数合計 1 件		
小哺乳類			大哺乳類			鳥類		
動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数
			ウシ	1	15			
						爬虫類		
						動物種	件数	飼養数
<p>【課題名：乳用種未経産牛における効果的なエストラジオール製剤併用 CIDR シンクプログラム<sup>1</sup>の検討】</p> <p>2. 動物実験の主な内容</p> <p>卵巣静止の乳用種未経産牛 15 頭にエストラジオール製剤及び膈内留置型プロジェステロン製剤 (CIDR) を使用した定時人工授精<sup>2</sup>を実施し、CIDR の留置期間別に繁殖成績を比較調査した。</p> <p>※ホルモン製剤の投与は熟練した技術者、あるいは熟練した技術者の指導の下、短時間で実施した。</p> <p>※定時人工授精のスケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ CIDR を 8 ～ 12 日間膈内に留置</li> <li>・ CIDR 留置時及び抜去翌日の計 2 回エストラジオール製剤を筋肉注射</li> <li>・ CIDR 抜去 2 日後に人工授精を実施</li> </ul>								

備考 1 ○○の箇所には和暦を記載すること。

2 「1. 動物実験等の実施件数等」の欄は、報告する年度における動物実験等の実施件数の総数、動物種 (上記に表示のない動物種による動物実験等を実施している場合は、当該動物種名を新たに記載すること。) ごとの件数及び飼養数について記載すること。

3 「2. 動物実験の主な内容」の欄は、報告する年度において実施した主要な動物実験の目的や実験方法等の内容について簡潔に記載すること。

別紙様式 1 (第 20 条 第 2 項関係)

動物実験等の実施状況  
(令和 6 年度)

千葉県畜産総合研究センター

1. 動物実験等の実施件数等						実施件数合計 1 件		
小哺乳類			大哺乳類			鳥類		
動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数
			ウシ	1	19			
						爬虫類		
						動物種	件数	飼養数
<p>【課題名：体外受精卵の受胎率向上技術の検討】</p> <p>2. 動物実験の主な内容  屠畜場由来の卵子から培養および凍結方法の組合せが異なる体外受精卵を作成し、品質を比較、より高品質となる組合せを選定し、この手法により所内供卵牛を用いて経膈採卵で体外受精卵を作成し、所内繫養牛（OPU 実施牛とは異なる）に受精卵移植を行い、受胎率を検証する。</p> <p>R6 年度実績は下記のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経膈採卵：のべ 9 頭</li> <li>・受精卵移植：のべ 10 頭</li> </ul> <p>経膈採卵および受精卵移植は熟練した技術者、あるいは熟練した技術者の指導の下、短時間で実施した。</p>								

備考 1 ○○の箇所には和暦を記載すること。

2 「1. 動物実験等の実施件数等」の欄は、報告する年度における動物実験等の実施件数の総数、動物種（上記に表示のない動物種による動物実験等を実施している場合は、当該動物種名を新たに記載すること。）ごとの件数及び飼養数について記載すること。

3 「2. 動物実験の主な内容」の欄は、報告する年度において実施した主要な動物実験の目的や実験方法等の内容について簡潔に記載すること。

別紙様式 1 (第 20 条 第 2 項関係)

動物実験等の実施状況  
(令和 6 年度)

千葉県畜産総合研究センター

1. 動物実験等の実施件数等						実施件数合計 1 件		
小哺乳類			大哺乳類			鳥類		
動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数
			ウシ	1	2			
						爬虫類		
						動物種	件数	飼養数
<p>【課題名：黒毛和種去勢肥育における牛肉中不飽和脂肪酸割合の改善に向けた脂肪酸カルシウムの効果的な給与方法の検討】</p> <p>2. 動物実験の主な内容          黒毛和種去勢肥育における牛肉中不飽和脂肪酸割合の改善に向けた脂肪酸カルシウムの効果的な給与方法の検討          令和 6 年度は黒毛和種雌牛 2 頭を用い、第一胃 pH を上昇させる方法を検討する試験を実施した。</p> <p>黒毛和種雌種 2 頭</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第一胃内 pH センサーの留置 (経口投与により留置)</li> <li>・採血 2 回 (1 回/頭)</li> <li>・第一胃内容液の採取 1 2 回 (6 回/頭 2 週おき)</li> </ul> <p>採血および胃液採取は熟練した技術者、あるいは熟練した技術者の指導の下、短時間で実施した。</p>								

備考 1 ○○の箇所には和暦を記載すること。

2 「1. 動物実験等の実施件数等」の欄は、報告する年度における動物実験等の実施件数の総数、動物種 (上記に表示のない動物種による動物実験等を実施している場合は、当該動物種名を新たに記載すること。) ごとの件数及び飼養数について記載すること。

3 「2. 動物実験の主な内容」の欄は、報告する年度において実施した主要な動物実験の目的や実験方法等の内容について簡潔に記載すること。

別紙様式 1 (第 20 条 第 2 項関係)

動物実験等の実施状況  
(令和 6 年度)

千葉県畜産総合研究センター

1. 動物実験等の実施件数等						実施件数合計 1 件		
小哺乳類			大哺乳類			鳥類		
動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数	動物種	件数	飼養数
			ウシ	1	13			
						爬虫類		
						動物種	件数	飼養数
<p>【課題名：カシューナッツ殻液が乳牛の体内受精卵採胚成績に及ぼす効果の検証】</p> <p>2. 動物実験の主な内容 カシューナッツ殻液が乳牛の体内採胚成績に及ぼす効果を検証する目的で、所内供卵牛をカシューナッツ殻液添加群（以下試験群）と非添加群（以下対象群）に分けて体内胚採取を実施し、採卵成績また血清生化学検査成績（添加群は Pre・Post、非添加群は Post のみ）を比較する。</p> <p>採血 : 13頭のべ33回 体内卵採取 : 13頭のべ24回</p> <p>採卵および採血は熟練した技術者、あるいは熟練した技術者の指導の下、短時間で実施した。</p>								

備考 1 ○○の箇所には和暦を記載すること。

2 「1. 動物実験等の実施件数等」の欄は、報告する年度における動物実験等の実施件数の総数、動物種（上記に表示のない動物種による動物実験等を実施している場合は、当該動物種名を新たに記載すること。）ごとの件数及び飼養数について記載すること。

3 「2. 動物実験の主な内容」の欄は、報告する年度において実施した主要な動物実験の目的や実験方法等の内容について簡潔に記載すること。